

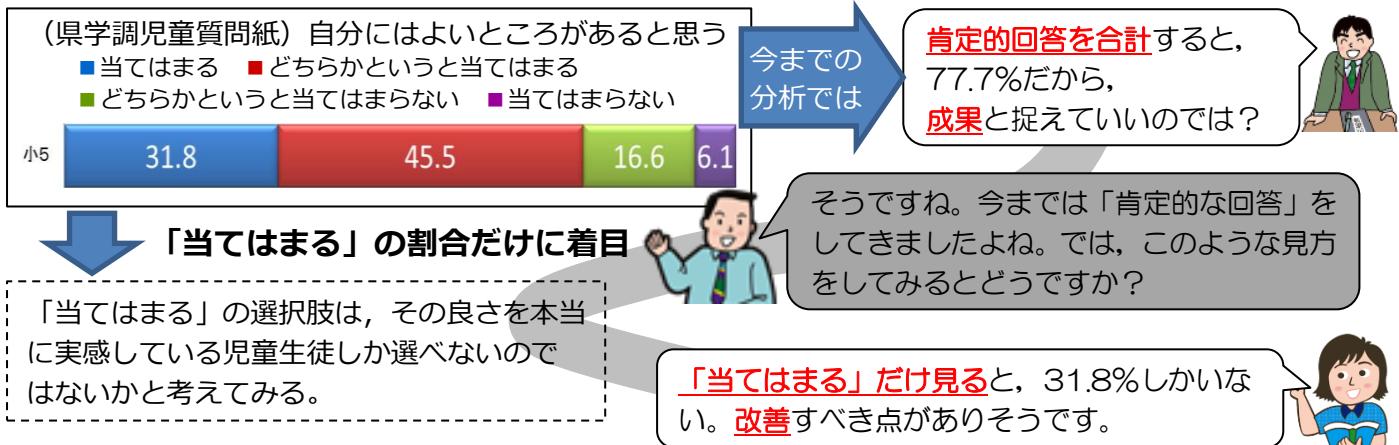
成果を上げている学校の取組から指導改善について考えてみましょう。

学習状況調査の児童生徒質問紙の回答状況を指標として、複数年度に渡って一定の成果を出している学校を選定し、訪問しました。そして、なぜそのような成果を出すに至ったのか、実際の学校の取組を伺うことができました。本資料は、その内容をまとめたものです。各学校や市町村教育委員会において有効活用していただければ幸いです。

なお、本訪問調査は、調査・分析の専門的な立場から、岐阜大学教育学部学習協創センター長 益子典文教授の御協力をいただいて実施しています。

1 質問紙調査の見方を変えると、見えなかつたことが見えてきます。

この調査結果をどのように捉えますか？



質問紙は基本的に四件法で構成されています。「当てはまる」の項目だけに着目してみると、見過ごしていた課題や意外な成果に気付くことができます。

例えば、生徒数約400名のD中学校で、「当てはまる」だけの割合を見てみると・・・

質問項目	県平均	D中
学校に行くのは楽しい。	46.0%	70.8%
最後までやりとげてうれしかったことがある。	66.4%	80.0%
友達の意見や話を最後まで聞くことができる。	54.3%	72.3%
自分の考えを発表する機会が与えられていた。	47.2%	80.0%
友達との間で話し合う活動をよく行っていた。	49.5%	76.9%
話し合いで自分の考えを深めたり広げたりできている。	29.7%	57.7%
数学の授業は自分から進んで学習しようとしている。	35.2%	55.4%

「当てはまる」だけの割合なのに、この値はすごい！この学校はどんな取組をしているのだろう。

生活面・学習面どちらの項目も高い。どうしたら生徒がここまで実感できるのだろう。

D中学校以外にも、複数年度に渡って顕著な値を示し続けている学校があります。それらの学校を訪問して、子どもの姿を見たり、先生に聞き取り調査をしたりしました。

2 成果を上げている学校の多くに共通している取組があります。

- 1 指標があり、「仮説・検証」の時期・方法が明確な指導改善
- 2 全職員体制による共通理解・共通行動
- 3 児童生徒が安心して学習できる環境づくり
- 4 児童生徒の思考力、判断力、表現力を育む授業づくり
- 5 豊かな教育力を育む学校・家庭・地域の連携

言語活動や学び方、学習規律を児童と教師で創り上げる【A小学校】

【A小学校】では、管理職と学年主任が連携して、国語や算数、社会を中心として「深める」をキーワードに取り組んでいます。練り合う場を充実させる授業の学び方や学習規律などを共通理解事項として、どの学級でも取り組んでいます。また意味指導を大切にし、教師と児童で「なぜそうなるのか」「それをすると何が良いのか」が共有されているので、児童は納得して取り組めています。

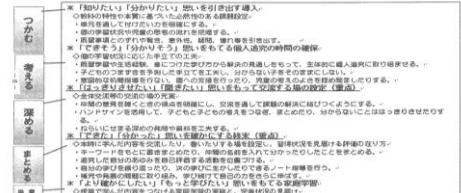
願う児童の姿を描き、
そのために教師がすべきことを精選

児童や保護者に「取組の意味」
を説明し、共通理解の上で実施

若手とベテランが学び合う
高い同僚性を生かして

△の授業はこれだ！H30

～わかる・できる・のむる喜びを生み出す授業改善～



○○小の授業はこれだ！

生活ノートの書き方(例)

学年通信



毎時間見開きの
社会科ノート
学習内容の定着

意味指導充実による保護者の協力

校内研修等で検証改善

- ・校内共通理解事項の徹底
- ・学年主任会→学年会
- ・優れた授業のビデオ分析
- ・求める授業像の具体理解

常によりよい授業の在り方を求める教師の姿勢

教職員の共通理解・共通行動で学力向上を図る【B小学校】

【B小学校】では、縦割り活動が日常的に位置付いており、特に、中学年以上で自己有用感や責任感をもっている児童が多いです。教職員の共通理解・共通行動が徹底しているので、進級して学級編成や担任の先生が変わっても同質な授業を受けることができ、安心して学習に向かうことができる環境が整っています。また、「学校・家庭・地域」による連携が活発な地域でもあります。

児童が抱える不安
仲間関係の変化

教え方の変化

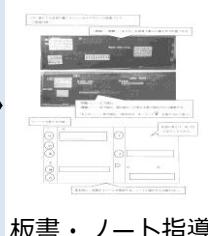


教師が抱える不安
前任校との違い

指導経験の差



4月の職員会・研究会等で
授業の共通事項を確認



安心して
学べる
環境づくり

「みんなに話すみんなで聞く」

分からなさを表出しながら
学び合える学習集団

自信をもつ
て授業に向
かえる教師

わかる・できる喜びが
実感できる授業

学年会で授業内容を検討

指導改善の基本意識：「B小の児童はB小の全職員で育てる～チームB小～」

学びに向かう力を育むために魅力ある授業・学校づくりを推進する【C小学校】

【C小学校】は、平成26年度から4年間、算数の研究に取り組むことを通して、自ら学ぶ力を育むことに焦点を当てて取り組んでいます。児童と教師が一緒になって、目指す授業の在り方について考え、その実現に向けて短期スパンで検証・改善して取り組んでいます。「つなげて話す」、「わけをつけて説明する」等、論理的な思考力や表現力の育成にも全職員で取り組んでいます。

1年間を5期に分けて、
短期目標を立てて検証・改善

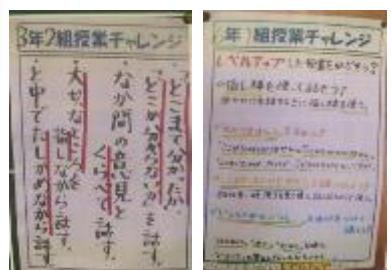


各期間の意味を共通理解し、目指す姿と検証方法を明確にして共通行動

「深い学び」を具現化する授業づくり
に向けて全職員による共通行動

- ①深い学びを共通理解する職員研修・研究
- ②効果的な学びを生み出す教科書の活用
- ③理由を付けて考えを説明する児童の育成
- ④説明できる力を意識した指導案の改善
- ⑤ねらいと出口を明確にする授業設計図
- ⑥深い学びを追究する課題別グループ研究

授業で目指す姿を児童自ら
宣言する「授業チャレンジ」



生徒と教師の信頼関係を基盤に「学ぶ意味」から学力向上を図る【D中学校】

【D中学校】は、数年前までは学校生活や学習に課題を抱えていましたが、生徒に寄り添い、教職員の意識を一つにそろえることから指導改善をスタートさせています。同時に、若手が多い職員構成を生かして、ミドルリーダーとなる教職員の育成にも力を入れています。さらに、地域にも積極的に働きかけて、地域と一緒にD中学校の生徒を育成する風土を醸成しています。

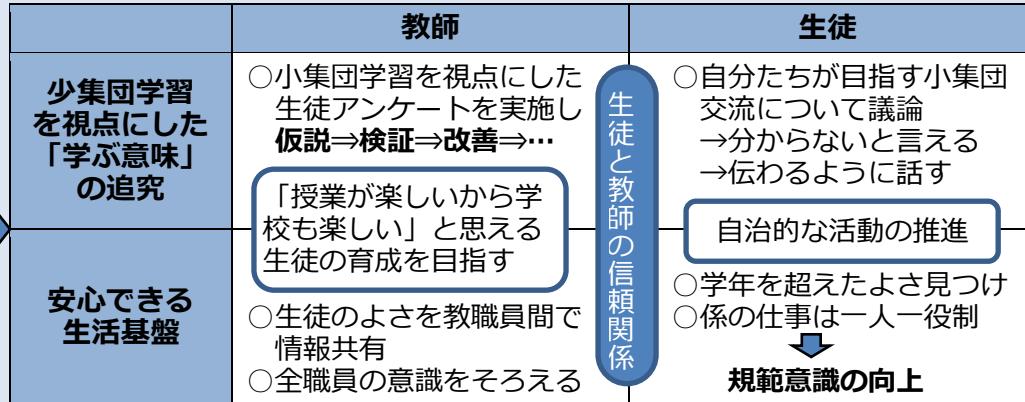
数年前までは、学校として課題を抱えていた状況

そこで、まず目指したのは、

信頼される教職員

- ①率先垂範 ②師弟同行
- ③支え合い学び合う職員
- ④現職研修の充実
- ⑤礼儀（服装・言葉遣い）

自分意識と仲間意識を大切にする生徒と教師



仮説→検証→改善のサイクルで生活・学習の基盤をつくる【E中学校】

【E中学校】が目指す生徒の姿は、「誰一人として悲しい思いをしないで、全員の笑顔があふれる学校」です。その実現に向けて、毎月、学習と生活のアンケートを実施し、各学級・各教科で成果や課題を「見える化」しています。さらに、その結果を全職員で情報共有し、自分たちの指導を見つめ直すというサイクルを継続しています。

学校生活アンケート

1	相手の話を理解して聴こうとしていますか
2	地域の方に自分から進んであいさつをしていますか
⋮	⋮
6	授業はよく分かりますか
7	学校生活は楽しいですか
⋮	⋮
項目数は 10, 全学年共通	

生徒による授業評価アンケート

1	国語の授業はよく分かる。
2	国語の授業は楽しい。
3	社会の授業はよく分かる。
⋮	⋮
20	家庭科の授業は楽しい。

項目数は 20, 全学年共通

毎月実施して一覧表作成, 共有

データをもとに検証・改善

教職員が一体となって共通行動

⇒「見える化」されたデータを各学級担任や各教科担任が分析し、自分の指導の在り方を見つめ直し、指導改善につなげる営みを継続している。

アンケート結果を生徒会も共有

→自治的な力の育成

⇒自分達の現状から課題を見い出し、全校へ問題提起して解決策を探る。

風通しのよい職員集団で安心感溢れる学校づくりを目指す【F中学校】

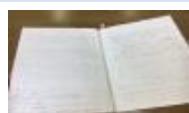
【F中学校】は、校区の小学校と共に人権教育を推進している学校です。教師は、「日常で勝負」、「子どものために」をキーワードにして、教師自ら生徒の自己肯定感を育む「よさ見つけ」や、リーダーとなる生徒の育成に力を注いでいます。また、若手職員の学ぶ意識が高く、ベテラン職員と日常的に指導の在り方について相談する姿があります。

自己肯定感を育む日常的な取組



ポカポカの木

「師弟同行」



生徒会長ノート



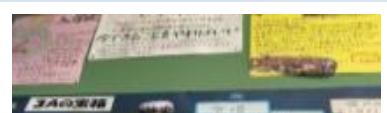
先生メッセージ

- 毎日の給食時間に生徒会長と生徒指導主事からよいことの放送
- 各学級に全職員からメッセージ

生徒による自治的な活動の推進



マイゴミ箱



背面掲示



ロッカー整頓

- 全教室、生徒の手による生徒のための背面掲示になっている
- 美しい環境のためできること